TITLE

9
SEP. 200
タイト
定価580y

FeliCa、テレビ電話、バーコード。携帯電話フル活用の旅。

平成16年9月1日発行（毎月1回1日発行）第5巻第9号 平成12年11月24日第三種郵便物認可
Numb

遊び、踊り、食べる。ケータイで行く厳選55

深夜0時の東京ガイド

金原ひとみ×平野啓一郎
「作家は夜、作られる」



FOMA完全攻略

ケータイだけでどこまで行ける？

東京を駆けめぐる! バーコードラリー プレゼント有り!

Special Interview
山崎まさよし
アダム・クーパー
ウィル・ケンプ



photograph by David Heald©The Solomon R. Guggenheim Foundation, New York

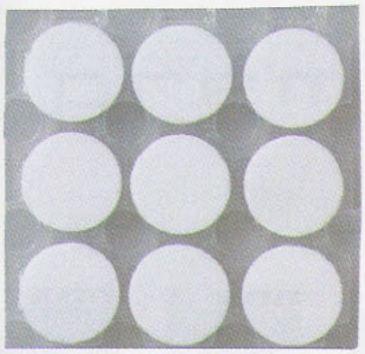
Bunkamuraでお会いしましょう。グッゲンハイム・コラボグッズ、完成です!

ついに完成の日を迎えた『TITLE』×「グッゲンハイム美術館展」のコラボグッズ。いったいどんなアイテムになったのか、その全貌が明らかに!?

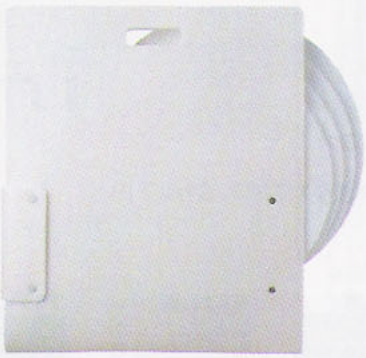
text : Yuko Harigae/giraffe
photographs : Hiroshi Kamaya



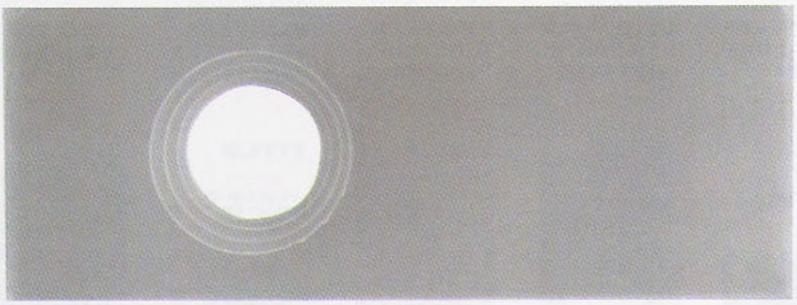
酒井俊彦
1964年高知県生まれ。各家電メーカーの先行デザイン開発のかたわら、家具、インテリアなどのデザインも手がける。最近作はPizzeria fumo(インテリア)、情報ネットワーク家電シリーズ(プロダクト/アドバンスモデル)など。



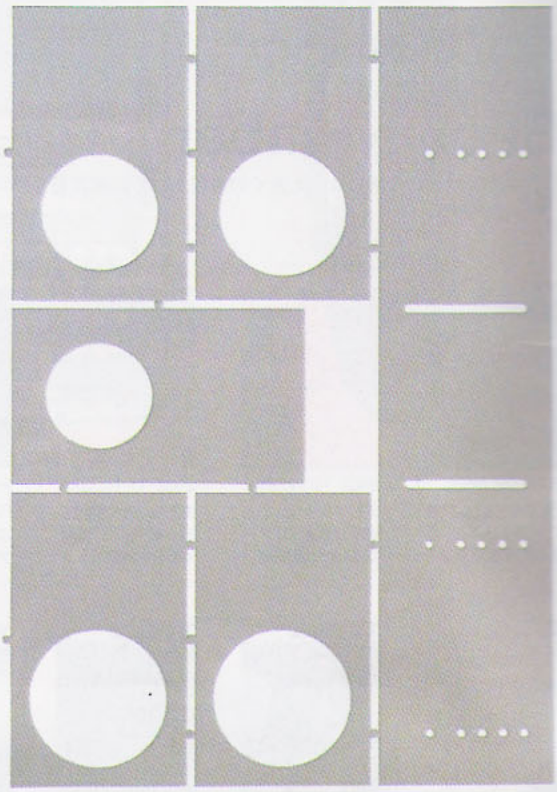
sugar
よく晴れた日の午後、ぼーっとしながらゆっくりお茶を飲む。携帯電話の電源も切って、たとえ30分だけでも世間の喧噪を忘れてしまうために。



cushion
ふと思いついてピクニックに行く。好きな人と一緒に、自然の中でのんびりするという気持ちよさを心ゆくまで満喫できれば、それでよし。



bookmark
大雨の日、会社をサボって一日中本を読む。リビングで、ベッドに寝転んで、そして飲み物片手にバスルームで。片時も本を手放さない、本の虫になってみる。



card
ずいぶん連絡を取っていない友人に、「突然インパクトのある手紙を送りたくなる」衝動に駆られて、製作に励む深夜の時間。

3カ月以上にもわたって企画・開発を進めてきた『TITLE』×「グッゲンハイム美術館展」コラボレーション・グッズも、デザイナー酒井俊彦さんの熱意とご苦労のかいあってついに完成! 「はかないもの」というコンセプトでつくられた4アイテムはいったいどんなものなのか、酒井さんご本人からコメントしていただこう。

「美術展に足を運ぶという贅沢な時間。それは、感動のみを求める、非常にはかない時間ともいえます。そのはかなさを、美術館のフォルムをモチーフに表現してみました」

で、それぞれのアイテムは、酒井さんによれば「お茶を飲む」「本を読む」などといった日常の行為の、〝脇役〟とも言うべきもの。使う人の何気ない日常を少しだけ豊かに引き立ててくれるものばかりだ。ちなみに4つとも、購入した時の状態や形をとどめているのはほんのひと時で、使うことでその形状が変わるところもポイント。コラボレーションでミュージアムグッズをつくるという新たな試みにふさわしい、オリジナリティあふれる楽しいアイテムばかりだ。

え、それだけじゃ何だかわからない? そう思った方、このコラボグッズは展覧会場のみでしか手にすることができません! 今すぐ渋谷Bunkamuraへどうぞ!

渋谷Bunkamuraで好評開催中!
「ニューヨーク グッゲンハイム美術館展」

フランク・ロイド・ライト設計の個性あふれる外観で、ニューヨークのランドマークの一つとなっているソロモン・R. グッゲンハイム美術館。約4000点にも及ぶ所蔵作品を誇る20世紀美術の殿堂として、世界中の美術ファンから愛されている美術館だ。現在渋谷のBunkamura ザ・ミュージアムで好評開催中の「ニューヨーク グッゲンハイム美術館展 モダン・アートの展開―ルノワールからウォーホルまで」は、その所蔵品の中から79点を展示。ルノワール、ピカソ、ダリ、ウォーホルなど、モダン・アートの系譜を語るうえで欠かすことのできないアーティストの名作が揃い、この夏のアートシーンの話題をさらうこと間違いなしだ。



Bunkamura ザ・ミュージアム(渋谷東急本店横) ～10月11日(月・祝)、開催期間中無休。午前10時～午後7時(金・土は午後9時まで、入館は各閉館の30分前まで) ㊂ハローダイヤル03-5777-8600 www.guggen.jp

photograph by David Heald©The Solomon R. Guggenheim Foundation, New York